

結城市公立保育所のあり方について

【中間報告】

令和4年9月26日

結城市公立保育所のあり方検討委員会

目 次

| | |
|----------------------|----|
| 1. 結城市の保育の現状と課題 | 2 |
| (1) 定員及び入所児童数の推移 | |
| (2) 就学前児童数の推移 | |
| (3) 待機児童の推移 | |
| (4) 公立保育施設の状況 | |
| (5) アンケート集計結果から | |
| 2. 公立保育所の方向性 | 9 |
| (1) 公立保育所の適正規模 | |
| (2) 公立保育所の再編計画 | |
| 3. 検討委員会の今後の検討課題について | 10 |

1. 結城市の保育の現状と課題

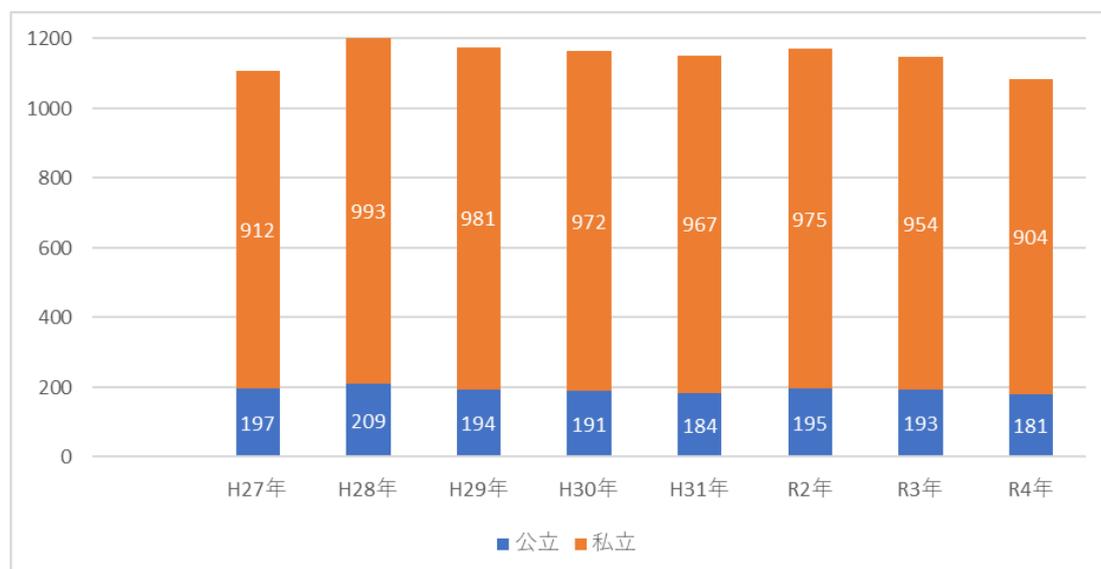
(1) 定員及び入所児童数の推移

本市には、3つの公立保育所7つの民間保育園、1つの民間認定こども園、3つの民間幼稚園が設置されております。

保育所の児童数は、平成28年度をピークに緩やかな微減・微増となっておりますが、令和4年度は大きく減少しています。ただし、公立保育所については一定数を保っており、市全体の適正な定員管理が求められています。

・保育施設別入所児童数（各年度4月1日）

| 区分 | 施設 | 定員 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | R2 | R3 | R4 |
|----|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 公立 | 城西 | 80 | 83 | 89 | 80 | 76 | 73 | 75 | 74 | 71 |
| | 山川 | 60 | 54 | 61 | 55 | 58 | 56 | 61 | 61 | 59 |
| | 上山川 | 60 | 60 | 59 | 59 | 55 | 54 | 57 | 57 | 51 |
| | 市外 | | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 2 | 1 | 0 |
| 私立 | 明照 | 110 | 106 | 112 | 110 | 103 | 102 | 103 | 104 | 101 |
| | みに | 200 | 178 | 185 | 187 | 195 | 191 | 185 | 182 | 162 |
| | ふたば | 199 | 175 | 174 | 192 | 176 | 184 | 181 | 163 | 145 |
| | つくば | 170 | 166 | 167 | 160 | 150 | 150 | 160 | 157 | 161 |
| | たま | 70 | 86 | 97 | 89 | 84 | 83 | 76 | 71 | 67 |
| | あすなろ | 70 | 72 | 76 | 68 | 62 | 58 | 58 | 65 | 66 |
| | かなくぼ | 120 | 100 | 101 | 102 | 118 | 111 | 117 | 116 | 103 |
| | もろ | | 10 | 8 | | | | | | |
| | 玉岡堯舜 | 70 | | 41 | 52 | 60 | 60 | 70 | 69 | 67 |
| | 市外 | | 19 | 32 | 21 | 24 | 28 | 25 | 27 | 32 |
| 合計 | | 1,209 | 1,109 | 1,202 | 1,175 | 1,163 | 1,151 | 1,170 | 1,147 | 1,085 |



幼稚園については、少子化とともに3歳到達時点での保育所入所率が高くなっていることから、近年、児童数が大きく減少し、各施設とも定員を大きく下回っております。

・幼稚園・認定こども園（教育）の児童数（各年度4月1日）

| 施設名 | 定員 | H30 | H31 | R2 | R3 | R4 | 備考 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|
| つくば幼稚園 | 210 | 189 | 183 | 152 | 141 | 134 | |
| 結城ひかり幼稚園 | 75 | 85 | 74 | 67 | 62 | 52 | R4 定員減 |
| 富士見幼稚園 | 60 | 69 | 71 | 56 | 39 | 38 | |
| 玉岡堯舜(教育) | 130 | 133 | 127 | 117 | 103 | 83 | |
| 計 | 475 | 476 | 455 | 392 | 345 | 307 | |

(2) 就学前児童数の推移（各年度4月1日）

就学前の0歳～5歳人口が、平成28年度と令和4年度を比較すると、576人減少しています。転出入の増減は少ないことから、0歳児の出生数が平成28年度と令和4年度までに122人減少していることが、就学前児童数を大きく減少させる原因となっております。

| 年齢 | H28.4 | H29.4 | H30.4 | H31.4 | R2.4 | R3.4 | R4.4 | |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|
| 0歳 | 378 | 393 | 370 | 298 | 288 | 276 | 256 | 122人 減少 |
| 1歳 | 429 | 387 | 393 | 382 | 322 | 293 | 287 | |
| 2歳 | 383 | 438 | 396 | 393 | 378 | 319 | 290 | |
| 3歳 | 436 | 395 | 431 | 400 | 396 | 373 | 326 | |
| 4歳 | 423 | 441 | 390 | 424 | 394 | 391 | 369 | |
| 5歳 | 446 | 425 | 441 | 394 | 430 | 396 | 391 | |
| 合計 | 2,495 | 2,479 | 2,421 | 2,291 | 2,208 | 2,048 | 1,919 | 576人 減少 |

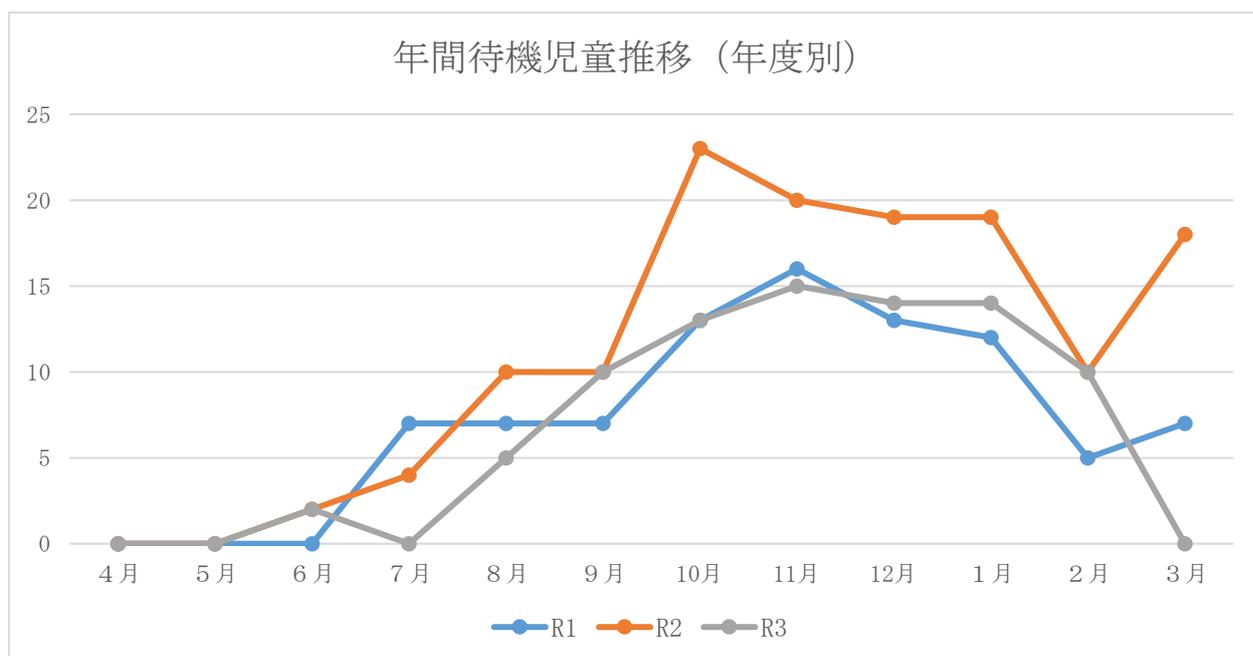
↘ : 転出入の増減

(3) 待機児童の推移

待機児童数は、令和2年度の数値が特に高くなっております。入所児童数が減少する中でも、年度途中の6月または7月には例年待機児童数が発生し、各年10月か11月にピークを迎えております。

出生数の減少とともに就学前児童数は減少していますが、年度途中の待機児童の発生が恒常化するなど、保育需要量は一定水準を保っており、公立保育所だけでなく、市全体の保育定員数の適正管理が課題として挙げられます。

| 年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| R1 | 0 | 0 | 0 | 7 | 7 | 7 | 13 | 16 | 13 | 12 | 5 | 7 | 87 |
| R2 | 0 | 0 | 2 | 4 | 10 | 10 | 23 | 20 | 19 | 19 | 10 | 18 | 135 |
| R3 | 0 | 0 | 2 | 0 | 5 | 10 | 13 | 15 | 14 | 14 | 10 | 0 | 83 |



(4) 公立保育施設の状況

城西保育所は、当時の小田林保育所と城南保育所が平成8年12月末をもって廃止され、新たな統合保育所として60人定員で運営を開始しました。その後、入所児童数の増加により、平成15年度に定員を現在の80人に変更しています。

山川保育所は、昭和48年に定員60人で運営を開始し、昭和56年の改築時は定員を120人に変更しましたが、以後は児童数の減少により60人まで定員を減少しています。現在の建物は昭和56年に建築され、令和10年に耐用年数が到来します。

上山川保育所は、昭和49年に定員60人で運営を開始し、昭和57年の改築時には90人の定員としましたが、山川保育所同様に、現在は定員60人となっております。現在の建物は昭和57年に建築され、令和11年に耐用年数に達します。

特に山川保育所・上山川保育所の老朽化が進んでおり、ともに耐用年数が10年を切っていることから、早急な施設整備計画等の策定が必要となります。

| 施設名 | 定員 | 延床面積 (㎡) | 敷地面積 (㎡) | 構造 | 建築年 | 耐用年数 到来年度 |
|--------|----|-------------|-------------|---------------|-------------|--------------|
| 城西保育所 | 80 | 601 | 6,846 | 鉄筋コンクリ造 1階 | 平成8年 10月 | R25 |
| 山川保育所 | 60 | 931 | 6,131 | 鉄筋コンクリ造 1階 | 昭和56年 | R10 |
| 上山川保育所 | 60 | 698 | 6,066 | 鉄筋コンクリ造 1階 | 昭和57年 | R11 |

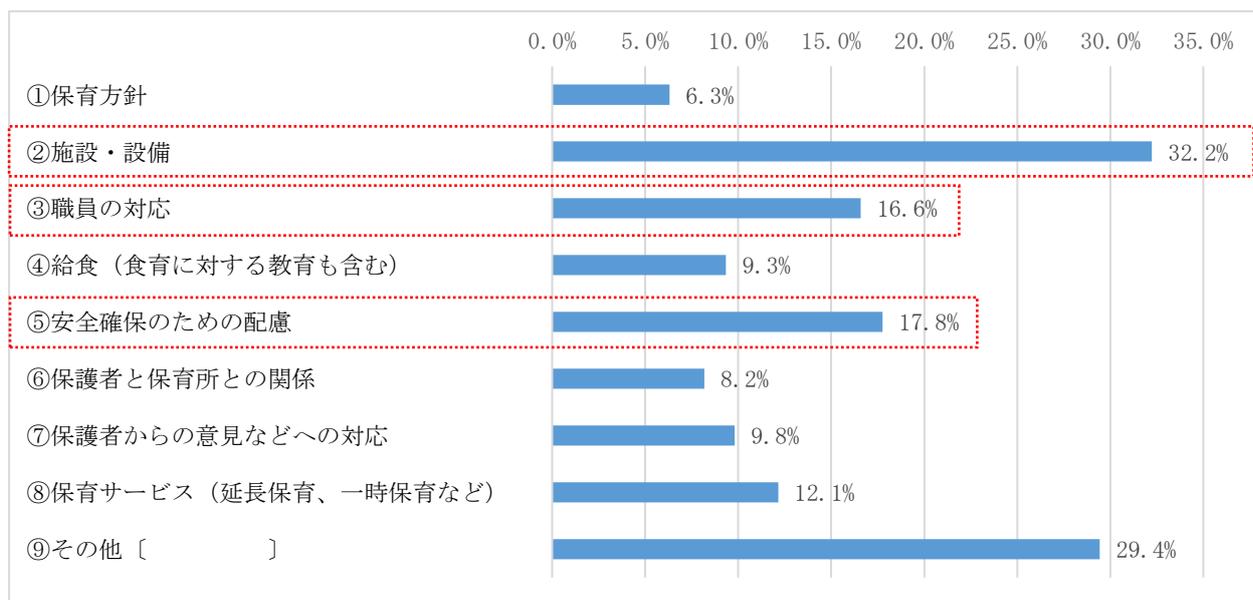
(5) 公立保育所のあり方についてのアンケート調査結果から

- 調査期間 令和4年8月1日～8月21日
- 調査件数 1090人
- 回答者数 428人 (39.3%)

①【問2-3】預けている一番年齢の小さいお子様が通われている（または通う場合の）保育所等について「気がかりなこと」と思われるものは何ですか（最大3つまで）（複数回答）

最も回答が多かったのが『施設・整備』32.2%、次に『安全確保の為の配慮』17.8%、続いて『職員の対応』16.6%となっております。また、その他の回答29.4%のうち、特になしが14.3%となっております。

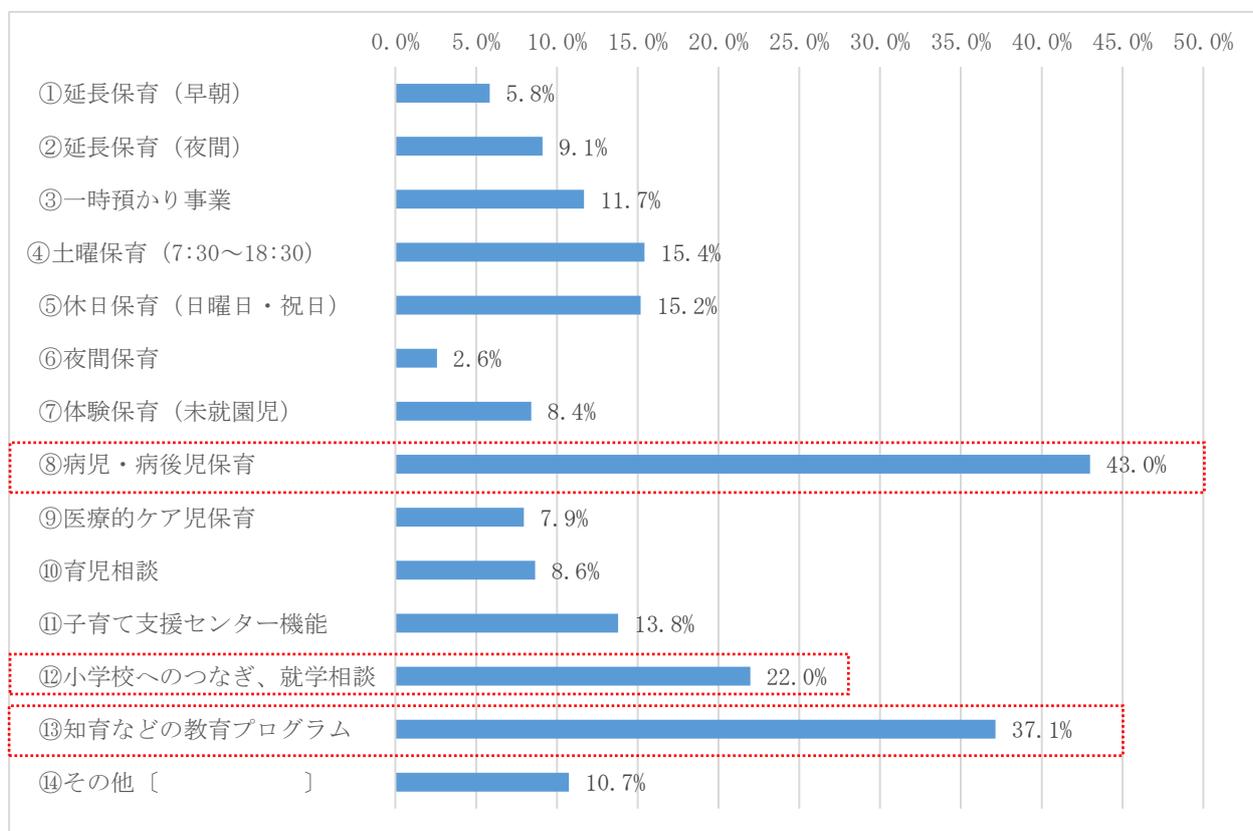
子どもの安心・安全な保育環境を望む声の大きいことが読み取れます。



②【問 2-4 今後、実施してもらいたい、あるいは充実してもらいたい保育サービスは何ですか（最大4つまで）（複数回答）】

最も回答が多かったのが『病児・病後児保育』の43.0%、次に『知育などの教育プログラム』37.1%、次に『小学校へのつなぎ、就学相談』22.0%となっております。

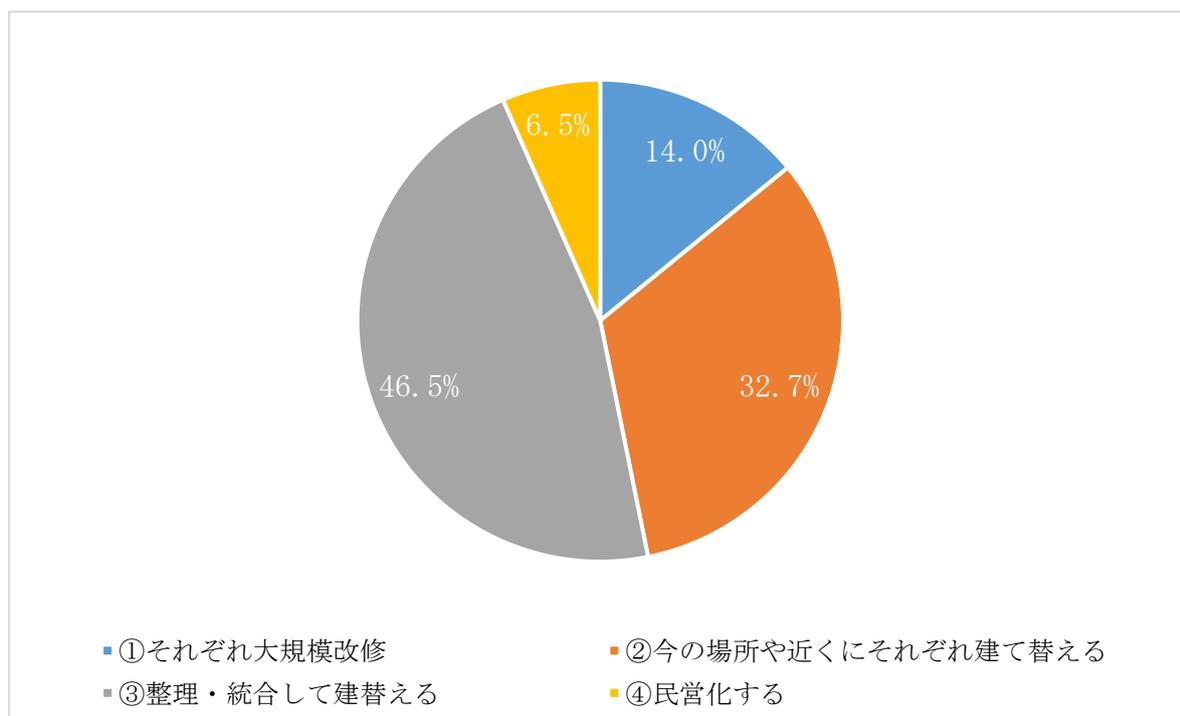
市内の認可保育施設において、病児・病後児保育の実施はありませんが、働く親には需要が非常に高い事業と言えます。また、幼児教育や小学校とのつなぎについて、保護者の関心が高いことがうかがえます。



③【問 3-2】 公立保育所の老朽化について、城西保育所は建物の耐用年数にやや余裕があるものの、山川保育所と上山川保育所は建物の耐用年数が迫っており、現在の建物のままでは使用ができなくなります。老朽化への対処方法としては、大規模改修や建て替えが考えられますが費用面ではこの2つの方法に大きな差はありません。今後、耐用年数が迫る建物はどのようにしたらよいと思うか教えてください。(あてはまるもの1つにチェック)

| | |
|-----------------------|-------|
| 第1位：整理・統合して新しく建て替える | 46.5% |
| 第2位：現在ある場所やその近くに建て替える | 32.7% |
| 第3位：それぞれ大規模改修をする | 14.0% |
| 第4位：耐用年数がかかる順に民営化する | 6.5% |

結城市全体のアンケート回答者 428 人中、『保育所を整理・統合して新しく建て替える』が 199 人の 46.5%と、約半数を占めています。続いて、それぞれの場所に建て替えるが 140 人の 32.7%となっております。民営化については少数派の結果となりました。2 箇所建て替えるよりも、統合して 1 箇所に建て替えた方が効率的という意見と考えられます。



2. 公立保育所の方向性について

(1) 公立保育所の適正規模

- ・現時点では、民営化はしない
- ・公立保育所全体の定員数は現状維持とする

(2) 公立保育所の再編計画

- ・公立保育所は北と南に1箇所ずつは必要
- ・山川保育所と上山川保育所を統合して建て替えを検討
- ・保幼小中連携のため、場所は新設小中一貫校の近くが望ましい
- ・新設統合保育所はハザードマップの浸水想定区域を避けるべき



(3) 公立保育所の役割

- ・ 保育の質の向上に取り組む
- ・ 休日保育等の特別保育事業の拡充を行う
- ・ 跡地には新たな保育サービス施設の設置を検討する

3. 結城市公立保育所のあり方検討委員会の今後の検討課題について

- ・ 公立保育所の保育内容（サービス）について
- ・ 小学校等との連携・接続について
- ・ 公立保育所の役割について

その他、必要事項について審議を継続し、令和4年度中に、市長に提言書を提出いたします。